

岩手県から北海道へ

氏名 山 川 治

岩手県市大槌高等学校 → 北海道小樽潮陵高等学校
(期間：平成28年4月1日～平成30年3月31日)

1 岩手県教育

1 大学進学懇談会（通称：16校会議）

岩手県の進学実績を推進するために、県全体の視点から国公立大学合格者数の底上げ及び難関大学・医学部等への挑戦を支援している。また、調和の取れた人材育成を図りながら、高校教育現場での改善工夫実践を県全体で共有し、16校以外の各高校現場にも還元し県全体の進学向上を目指している。具体的な事業は下記のとおりである。

2 いわて進学支援ネットワーク合同事業

- (1) 1学年最難関大学対策講座（年3回）
- (2) 2学年東大講座（年3回）
- (3) 3学年東大講座（年5回）
- (4) 1学年難関大学対策講座（年1回）
- (5) 2学年難関大学対策講座（年1回）
- (6) 3学年難関大学対策講座（年4回）
- (7) 医学部進学セミナー
- (8) センター重視大学対策事業 ウィンターセッション（2泊3日）
- (9) 大学進学懇談会（1回）
- (10) 教員指導研修会 大学入試に精通した一流講師を招き、県内教員の教科指導力向上を図る。
- (11) 医学部対策講座（7）とは別事業

2 岩手県や大槌高校の特色ある教育活動

1 岩手県の特色ある教育活動

- (1) 4月に高校1・2年生を対象とした基礎力確認調査を実施
現場の教員が、正解・不正解・無答の集計をする。（集計用エクセルシートは県から配信される）弱点項目の改善に向けて指導方法を見直すなどを行っている。
- (2) 数学・英語の学力向上訪問を実施
各学校が、それぞれの実態に応じた学力向上の目標を設定し、その目標を達成するための中学校・高等学校での指導の連続性の確保、効果的な改善策の策定や授業改善に係る指導・助言など、学力向上を図っている。数学では、指導主事を介して、中学校の指導例を知ることができるなど情報を共有することができる。
- (3) 授業力向上セミナー
教員の授業力のより一層の向上を目標に、県内で優れた指導実践を行っている教員の授業や岩手県の課題

に対応した授業を紹介している。

(4) 高校数学活性化プロジェクト

教員の ICT 活用能力や、アクティブラーニングの指導方法など、高校における数学教育の課題や問題点に対する教員の指導力向上のための研修会を実施している。

2 大槌高校の特色ある教育活動

- (1) 挨拶や整容指導などの徳育指導の徹底
- (2) 進学や就職に対するきめ細かな進路指導
- (3) 生徒会を中心とした内陸と沿岸の高校との交流
- (4) 吹奏楽部や校内独自に設立している復興研究会を中心とした外部との交流

3 私が取り組んできた実践

担当教科は数学である。数学を通して、生徒に身につけて欲しい力の中で「自分の考えを相手に分かりやすく説明する」(*)を特に重視している。これに付随して、「相手の意見に耳を傾ける」や「仲間と協力して一つの目標に向けて取り組む」などの素養も身につくと考える。

上記のことを実践するために、埼玉県で行われた研修会で知り得た CoREF の提唱するアクティブラーニング（以下 AL と表記する）の手法の一つである「知識構成型ジグソー法」を普段の授業の中にも取り入れてきた。さらに、岩手県の授業力向上セミナーと呼ばれる研修会において岩手県内の教員に授業を公開してきた。また、できるだけ多くの生徒の考えを全体に周知するために、Ipad を使用し、生徒が書いた用紙をテレビに映し出し、該当生徒に考え方を説明させることによりクラス全体で共有するなど行ってきた。

2年間継続した結果、生徒の説明する力は確実に身につけ、自分の考えを的確に相手に伝えることができるようになった。そのため、進学のみならず就職生徒との進路面談もスムーズに進むとともに、大学推薦入試や就職試験における面接にも少しばかりではあるが良い影響を及ぼしたのではないかと考える。

しかし、AL の普及により生徒が今まで以上に授業に参加するようになったことからもたらされるメリットの裏にあるデメリットについて、今後、個人として研究していきたい。

近年、ツイッターなどの SNS の普及に伴い、自分の意見を述べる場面が確保されるようになった。さらに授業内での AL において周囲に認められる機会が一昔よりも多くなってきた。また、自分が分からなくても周りの仲間と協力することで知識を獲得することができる。

その一方で、進学先や就職先での多種多様な価値観を持つ集団に身を置き、自分の考えを否定されたときに譲歩する姿勢や相手を説得する力を生徒に身につけさせているだろうか？さらに、進学する上級学校、特に研究機関としての役割を持つ大学における講義とのギャップがあることには不安を感じる。活動的になった授業の普及により、じっくりと腰を据えて難問に取り組む姿勢や一人で解決していこうとする姿勢も併せて生徒に身につけさせるにはどのようにすれば良いか？上記に挙げた(*)の授業実践のために、AL などのような言葉にとらわれることなく、生徒の将来の生き方に焦点を当てた授業を思考錯誤して作っていきたい。

